

指定管理者が行う公の施設の管理状況報告（令和5年度分）

< 県の評価等 >

施設所管部名：

県土整備部

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	県営都市公園 ダイセーフォレストパーク（鈴鹿青少年の森）（鈴鹿市住吉町地内）
指定管理者の名称等	鈴鹿フォレストパートナーズ株式会社 代表取締役 益田直樹 （鈴鹿市矢橋一丁目23番4号）
指定の期間	令和5年2月1日～令和23年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・公園の維持修繕及び巡視点検に関する業務 ・公園の利用者への案内に関する業務 ・条例に基づく公園の利用時間の変更、公園内の行為の制限、利用の禁止又は制限 ・公園の利用の促進 ・その他の業務

2 施設設置者としての県の評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	指定管理者の自己評価		県の評価		コメント
	R4	R5	R4	R5	
1 管理業務の実施状況	B	B			園内の植物・施設の管理を適切に実施し、良好な公園環境の維持を行った。また、湿地帯保全活動等も展開した。
2 施設の利用状況	B	B			公園ホームページやSNS、市広報を活用した情報発信を行うとともに、既存イベントに加えて新規イベントを開催するなど、公園の利用促進に努めた。
3 成果目標及びその実績		A			利用者満足度は95.0%であり、目標達成となった。 ※ R4年度は、短期間かつ一部区域のみを先行しての指定管理であったことから、成果目標の達成評価は未実施です。

※「評価の項目」の県の評価
:

「+」（プラス） → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。
 「-」（マイナス） → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。
 「」（空白） → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

総括的な評価	<p>< 指定管理者の評価に対する県の評価 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「1 管理業務の実施状況」 業務仕様書に基づき適切に行っており、指定管理者の自己評価と同じ評価とした。 ・「2 施設の利用状況」 公園の環境を活用した湿地帯植物観察会などに加えて、新たに福祉の視点から障害の有無・年齢等に関わらず楽しむことができるイベントの開催や、Park-PFIで設置したカフェとの連携イベントを開催するなど公園の利用促進に努めた。広報面でもWebや鈴鹿市広報を活用した情報発信を行い集客に努めたことから、指定管理者の自己評価と同じ評価とした。 ・「3 成果目標及びその実績」 成果目標とする公園利用者満足度が95.0%であり、目標達成となった。適切に施設の維持・管理を行いつつ、利用促進に努めた結果といえることから、県としても指定管理者の自己評価と同じ評価とした。 <p>< 今後の課題又は指定管理者への期待 ></p> <p>引き続き、利用者の安全確保に向けた施設の適切な維持管理の徹底とともに、恵まれた立地やPark-PFIによる再整備、さらには隣接する県立鈴鹿青少年センターとの令和6年度からの一体運用の開始を踏まえて、連携した体験プログラムの実施などによって公園利用者の増加をめざすとともに、更なる公園の魅力向上につながる施策の展開を期待する。</p>
--------	---

< 指定管理者の評価・報告書（令和5年度分） >

指定管理者の名称： 鈴鹿フォレストパートナーズ株式会社

1 管理業務の実施状況及び利用状況

(1) 管理業務の実施状況

① 県営都市公園事業の実施に関する業務

- ・ 公園利用者に対する丁寧な案内を心がけるとともに、サイン表示の改修や倒木など危険個所の除去など、快適な公園利用に向けて取り組んだ。
- ・ 利用促進に向けて、HPの充実やSNSへの投稿に取り組んだ。
- ・ エア遊具の設置や、園内のカフェと連携したイベントの実施などによって、新たな利用者層の開拓を進めた。

〔主な開催イベント〕

都市緑化月間連携花苗配布、北勢3公園合同「キーワードを探せ」、湿地帯植物観察会、インクルーシブマルシェ、ウォーキング教室、野鳥観察会、湿地帯保全活動 など

② 施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

- 維持管理
浄化槽等法令で定められた保守点検を適切に実施したほか、業務仕様書に基づき受付事務所設置業務、植物等の維持管理業務、清掃業務などを適切に実施した。
- 修繕等
園内サイン表示改修、老朽化したトイレ目隠しの撤去、トイレ水回り関係修繕、遊具修繕（複合遊具、アスレチック遊具）、ベンチ交換などを行った。

③ 県施策への配慮に関する業務

- ・ 誰もが楽しめる公園をめざし、インクルーシブ遊具の設置や、福祉をテーマとしたイベント「インクルーシブマルシェ」を開催し、様々なバックグラウンドの方々との交流の場を創出した。
- ・ 環境に配慮した取組として、伐倒作業に用いるチェーンソーに植物性チェーンオイルを使用したほか、使用するコピー用紙にはFSC認証の製品を使用した。
- ・ 電灯の点灯時間の適切な管理や、コピー用紙の裏面再利用などコスト節減に取り組んだ。

④ 情報公開・個人情報保護に関する業務

- ・ 情報公開実施要領及び文書整理保管要領に基づき対応した。（令和5年度の開示請求はなし。）
- ・ 個人情報に記載されている申請書等はロッカーに保管し、管理を徹底した。また、個人情報を保管する場所は、警備会社に夜間警備を委託した。

⑤ その他の業務

- ・ 事故等の発生に際しては、迅速な対応及び県への報告を行った。
- ・ SPC構成企業間で連携し、不具合箇所の修繕等を迅速に行った。
- ・ 水鳥への餌やりや野良猫への無責任な餌やりの禁止の啓発や、園内へのバイク乗入れの禁止指導を行い、適切な公園利用の確保に努めた。
- ・ 園内の湿地帯保護は、三重大学の調査に協力するとともに、草地化を防止するための除草及び刈草撤去などはボランティアを募って実施し、湿地帯の価値の普及にもつなげた。

(2) 施設の利用状況

年間公園利用者数 253,343人（前年度：193,985人 対比：130.6%）

〔内訳〕 巡回による把握人数	179,621人	（前年度：156,414人	対比：114.8%）
炊飯場等利用人数	5,617人	（前年度：5,113人	対比：109.9%）
自主事業参加人数	184人	（前年度：306人	対比：60.1%）
カフェ利用者人数	52,440人	（前年度：8,302人	対比：631.7%）
その他施設利用人数	15,481人	（前年度：23,850人	対比：64.9%）

〔参考：遠足等の団体利用の状況〕

遠足利用：15件、大型バスの駐車利用：7件、その他団体利用：54件

2 利用料金の収入の実績

13,543円

●行為許可に伴う収入

催しに伴う占用 4件 9,583円
ロケーション 1件 3,960円

3 管理業務に関する経費の収支状況

(単位：円)

収入の部			支出の部		
	R 4	R 5		R 4	R 5
指定管理料	4,950,000	47,082,700	事業費	0	10,991,769
利用料金収入	0	0	管理費	4,847,882	37,338,851
その他の収入	0	81,462	その他の支出	0	0
合計 (a)	4,950,000	47,164,162	合計 (b)	4,847,882	48,330,620
収支差額 (a)-(b)	102,118	▲ 1,166,458	/		

※指定管理者が変わった場合、前年度の収支状況には斜線を記入しています。

※参考

利用料金減免額	なし
---------	----

4 成果目標とその実績

成果目標	<p>利用者満足度 82% (なお、77%以上を「B評価(標準)」として目標達成とする)</p> <p>[その他の目標値] 年間公園利用者数： 350,000人 利用者満足度(イベント時)： 90%</p>
成果目標に対する実績	<p>利用者満足度 95.0%</p> <p>[その他の目標値] 年間公園利用者数： 253,343人 利用者満足度(イベント時)： 95.0%</p>
今後の取組方針	<p>利用者満足度は目標を達成した。今後も質の高い公園管理を志向し、利用者満足度の維持・向上に努める。</p> <p>なお、公園の年間利用者数は目標とする350,000人に達しなかった。令和6年度からは隣接する鈴鹿青少年センター「スズカト」との一体運用を開始するので、リニューアルしたキャンプ場や、公園を活用した体験プログラムの展開により、さらに目標達成に向けて集客を図っていく。</p>

5 管理業務に関する自己評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	評価		コメント
	R4	R5	
1 管理業務の実施状況	B	B	植物管理や公園施設の管理を適切に行った。また、枯損木の伐採や湿地帯の枯草除去等、園内の安全確保に加え、景観維持や生態系の保全につながる取組を行った。
2 施設の利用状況	B	B	Webや鈴鹿市広報等を活用した情報発信に加え、自主事業としてイベントの開催・誘致を行うことで集客に努めた。
3 成果目標及びその実績	/		A 公園利用者の満足度は、成果目標を達成した。

※評価の項目「1」の評価 :

「A」 → 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
 「B」 → 業務計画を順調に実施している。
 「C」 → 業務計画を十分には実施できていない。
 「D」 → 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」「3」の評価 :

「A」 → 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
 「B」 → 当初の目標を達成している。
 「C」 → 当初の目標を十分には達成できていない。
 「D」 → 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

総括的な評価	<p>●上記の評価に至った根拠・理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 成果目標に対する達成度 利用者満足度は95.0%となり、県が求める数値（利用者満足度 77%以上）を達成した。 ・ 残されている課題 利用者数の目標は35万人としているが、結果は253,343人であり、コロナ禍以降では最多の利用者数とはなったものの、目標は未達成（達成率 72.4%）であった。 次年度は、利用者数目標の達成に向けて、鈴鹿青少年センター「スズカト」と連携したプログラム・イベントの展開や、さらにはドッグラン利用者といった新しい利用者層の開拓、更なる新規イベントの企画によって集客に努めていく必要がある。 ・ その他 当年度は、利用促進に向けた取組としては、前指定管理者が実施して好評だったイベント（キーワードを探せ、湿地帯観察会、野鳥観察会など）は継続しつつ、新たな利用者開拓、特に子育て世代や若者世代の利用促進に向けて、エア遊具をイベント的に設置したり、近隣福祉施設と連携して福祉の視点を取り入れ、障害の有無・年齢などを問わずに楽しんでいただけるイベント（インクルーシブマルシェ）を実施した。 広報面では、新たにSNSを活用した広報を積極的に展開したほか、雑誌メディアへの積極的な掲載を行うことで露出を増やし、今後に向けた認知度向上を行うことができた。 リニューアルされた「スズカト」や、Park-PFIでオープンしたカフェ「PARK LANE COFFEE」と連携し、更なる利用者増及び公園の魅力向上に努めていきたい。
--------	--